

別府市公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成 28 年 11 月 15 日（火） 10：00～11：30

場 所：別府市水道局 3 階大会議室

（事務局説明）

- ・委員 19 名のうち、1 名欠席、3 名代理出席により、設置規約第 7 条第 2 項の規定を満たしているため、会議の成立を報告。

1 報 告

（1）委員の交代について

（事務局説明）省略

（質疑応答）なし

2 議 題

（1）別府市地域公共交通網形成計画推進事業 進捗状況について

（事務局・受託業者説明）

委員①：鉄輪のバスセンターが非常に乗りにくい状態になっている、バスセンターの 1 番乗り場は別府方面行きで、2 番乗り場は亀川方面行きである。2 番乗り場の利用者は外国人の方が多く、どちらに乗っていいのかわからないということで、2 番乗り場をわかりやすくした方がよい。待合施設等を作って、Wi-Fi 設備も強化してはどうかと思う。ぜひバス事業者、窓口やドライバーの声も聞いてほしい。別府駅東口は大分交通と亀の井バスがあるが、利用者からすると、表記が 2 つに分かれていてわかりにくい。うみたまごと高崎山は利用者が多いのに恐らく東口で待っているのだろう。そのあたりをもう少しわかりやすくした方がよい。駅に社員を 1 人配置して案内をしている状況だが、外国人も喜んでいる。バス停ごとにバスの運行状況がわかる GPS 機能を使ったバスナビがあるが、福岡市内では導入しており、それがいちばんわかりやすいと思う。バス停で QR コードをかざすと何番のバスが今どこにいるかがわかる。将来的にはバスナビを入れるとバス待ちはかなり解消されると思う。将来的には IT 機器を使った案内をご検討いただきたい。明礬温泉、ひょうたん温泉に 17 時以降帰りのバスがないという点についても、お客様が増えてきている。タクシーとの協力も必要かもしれない。行き先がわかりづらいようで、鉄輪で待っていて亀川を回って別府駅に行くバスと、まっすぐ別府駅に行くバスと、外国人は迷っている。LED を使ってわかりやすくしたい。亀川を過ぎたら別府駅東口を表示させたりしないとわかりにくいとも思う。行きたいところ、観光地の表示を大きくするという事も進めている。バス配置が遅れているので、自助努力と行政からの支援をもらいながら進めていきたい。バスマップは、亀川の乗り場の案内や低床バスの情報も入れてもらいたい。

委員②：交通のためにこういった路線図を作っていただき感謝したい。私どもは日出町の路線図や総合時刻表をコンサル側として作っている。非常に情報量が多く、確認作業に時間がかかる。ついては、時刻以外について、情報の入れ方についてかなり修正したい部分があったので、早め早めに打ち合わせを重ねていきたいと感じている。

委員③：公共交通マップについて、タクシーについても触れられているが、サービス内容等については、資格を持ったうえで福祉タクシー等に力を入れているタクシー会社もある。各社集めるので、ぜひ実情をヒアリングし、活用していただきたい。スマート時刻表について、国内外の観光客に向けて作るということであるならば、片隅にでもいいので、タクシーの観光案内の中でもルート別運賃で認可が下りている分ははっきり料金を出せるし、ジャンボタクシーを使えば1人あたりの費用もバスとそれほど変わらない。最近は代理店を通さず直接利用する人も増えている。編集は大変だろうが、ぜひその部分を割いていただきたい。

会長：タクシーに乗る前にあらかじめ料金を提示しているという話が出たが、もう少し教えていただきたい。

委員③：提示している料金が実際のメーター料金と違った時はどうなるのかとか、時間帯でも違う。法的にクリアしなければならない点が多々あり、やっとな動き出した状況である。今の段階では、タクシー会社ではない第三者が、例えばタクシー料金が大まかにわかるアプリなどを参考として出すのはよいが、タクシー会社が〇円だというのは、ルート別で認可を受けているもの以外はしてはいけないことになっている。

会長：あくまでもマップ、時刻表は作業中ということで、細かいことも含めていろいろなご意見をいただいて作業を進めていきたい。その他、利用者側も含めて意見はあるか。前回の協議会でも、基本的にこの協議会の場というのは、別府市における公共交通のあり方、市民の足はどうあるべきか、基本に立ち返って議論をすべきだという意見がある。せっかくの機会なので自由な意見をうかがいたい。

委員④：前回の会議で、大分県が今取り組んでいる広域における再編実施計画の状況について、今年度、北部圏（中津市、宇佐市、豊後高田市）と豊肥圏（竹田市、豊後大野市、臼杵市）について再編実施計画を策定し、国に対して認定申請を行った。その結果、9月21日に認定を受けた。その結果10月1日からの再編で新ダイヤに移行したところもある。これにより、事業者への支援という形での国庫補助金等の要件の緩和にもつながっていくということで、非常に大きな効果があったのではないかと考えているところである。今後も北部圏・豊肥圏以外のエリアについても広げていきたい。ついては、今年度から南部圏（津久見市、佐伯市）での計画に着手しており、できれば来年度中に再編実施計画を作り上げるべく、関係者との調整・検討を行っている。その後も、まだできていないエリアについ

て、地元の市町村、事業者、利用者の声を聞きながら、整備に向かって検討していきたいと考えているので、ご協力願いたい。

会長：圏域でということやっていく場合、別府市はどういうことになるのか。

委員④：圏域＝市をまたぐ形での計画になるので、例えば別府市が早くやりたいという話になった場合、相手をどこにするかについて今後の調整が必要になっていく。別府市が今どこと組むということは答えられない。市ごとに再編実施計画などを考えてもらわないといけないので、別府市が先行して検討しているという状況でも、相手となる自治体の状況がどうなのか、組んだ時に進捗がどうなのかということも、実態としてはあるかと考える。

会長：補助金も格段に条件が良くなるので、ぜひ期待したい。その他にいかがか。

委員①：別府市でこれから考えないといけないのは高齢者。高齢者が免許を返納するとなった時に、別府に鉄道をひくわけにはいかないの、最終的にはバスになっていく。タクシーとバスがどうやっていくのかという話になっていく部分については、県の話は地域間交通の話。実際我々は別府市の東山からどうやって市街地の病院に連れて行くのか、買い物客をどう連れて行くのか、都市部に高齢者を集めるのか、やっと今我々は勉強を始めたばかりである。バス会社が赤字を負担するのも限界に来ている。運転手の数も減ってきている。そのあたりを集中化していく話を前向きにしていけないといけない。病院通いと買い物、最低限度の生活をどう守ってあげるのか。ここはもう無理だということを網形成計画の将来あるべき方向として検討していかなければならないだろう。インバウンドをどうするのかというのは、別府は観光のまちであるし我々も対応していくが、本気になって別府市とも協議をし、場合によっては県からの補助も受けられるスキームをこれから考えていく必要がある。我々が本気になって別府の将来を考えないと、本当に毎日交通事故が起こるようなまちになってしまう。観光と合わせて市民の移動支援を考えることが当社の責務であると考えている。

会長：住んでいる人と訪れる人がいるという別府市の方向があるので、総合的に頭に置きながら交通の課題について考えていかなければいけない。

委員⑤：子育て世代からみた公共交通に対する思いを話したい。私が初めてバスに乗ったのは小学校2年生の時である。5個先の停留所にある病院に通うため。もちろんはじめからひとりで乗れるわけではない。なんとか母とふたりで練習をした。そして学校から帰ってバスを待ち、いよいよ初めてのひとり旅。母のいない心細さと、少し大人になったようなあの時のドキドキを今でも忘れない。毎日同じバスに乗って登校・通勤をし、子供から大人へと変化していく私に、「おはよう」「がんばってね」「いってらっしゃい」と毎日応援してくれた運転士に今でも感謝している。私のこういった経験と思いが、この協議会に対して熱くなる理由なのかもしれない。私が子育てをする上で揺るぎないものがある。「体験のなかに

こそ学びがある。体験に勝るものはない。」ということである。私にとって公共交通はどこでもドアである。目指す場所まで時間はかかるが、それ以上に到着するまでの過程を楽しむことができる。私の子供たちがそれぞれ行きたいところに行く手段は公共交通である。よく「思い通りの時間に乗り物が来ない」という意見を聞く。けれど私は、決められた時刻に自分の生活態度を合わせることに焦点を置いている。人生自分の思い通りになることはないのだから、ないものを憂うのではなく、今あるものをどう生かすか考えを変える。そういう気持ちを子供たちにも持ってほしいという思いである。公共交通はただの移動手段ではなく、親子のコミュニケーションや学びの場を与えてくれる役割も担っているのだと、心に留め置いてもらえればうれしい。

会長：まさに、成長の場面というか、私も知らないまちに行った時に、バスに乗ると市内を回るだけでも色々なことが見えておもしろいので、バスに乗ったりする。そういう意味でも果たす役割がバスにはある。そういうことも頭に置きながら公共交通のことを考えていかないといけない。高齢者の事故が続いているので、警察からも何かあればお話し願いたい。

委員⑥：高齢者の事故という話があったが、交通事故を起こす人も遭う人も高齢者が多く、交通事故を減らすためには高齢者への対策がいちばん大切である。最も有効なのが免許返納制度である。別府市では、70歳以上の人が免許を返納すると1万円分のニモカカードが支給される。それが後押しになり、別府市は他の自治体に比べて免許の返納率がかなり高い状況にあり、警察の安全対策の推進にもつながる。

会長：今後もしっかり検討したいと思う。その他に利用者の立場で意見はないか。

委員⑦：明豊キャンパスは、明星小学生、明豊中・高生、別府翔青高校生の利用があり、利用者が増えるのではないかと思うが、幼稚園と小学校の利用状況を紹介したい。明星幼稚園は園のスクールバスを持っていない。5コースの亀の井バスの路線バス、またはスクールバスとして提供を受けているバスを利用している。先ほど委員から話があったように、バスに乗るということは運転士とのつながりであり、一般の路線バスの中では一般客と一緒にあって挨拶をしたり態度をきちんとしたりということで、幼稚園や家庭とは違う場で社会性を身につけさせる場を提供してもらっている。40～50年はこの状況が続いているのではないかと思われる。小学校の子供たちの登下校に公共交通を利用しているという状況がある。この子供たちのいいところは、子供が自分たちで時間を管理するということである。幼稚園のバスは教員と一緒にバスに乗っていき、園バスの代わりに利用しているが、小学生は自分で利用している。小学校も幼稚園もバスを利用しているが、これからどう公共交通の利用者を増やしていくかとなった時には、いま子供たちが利用しているのは路線バスがあるからである。大分市から通っている小学生が15～16名ほどいる。この子供たちは電車で来て別府駅西口からキャンパス前までバスに乗ってくるが、上の学年になれば大丈夫であるが、低学年の間は大分市からバスがあるとまっすぐ通わせられるという保護者の声をよく聞く。今年も1年生の保護者から何人もそういった声を聞いているところで、願いを

叶えてあげられるといいなとこの会に来ていつも思っているところである。

会長：路線バスの多様な役割、子供が自分で時間の管理をするという社会性を身につけられるという貴重な意見であった。その他いかがか。

委員⑧：今回マップにはいろいろな目的があるので、あまり情報が多すぎるのもいけないとは思いますが、大きなところで願いたいところは、高速バス・空港リムジンバスの乗り場を入れていただきたい。例えば観光港の入口のバス停は、高速バスは「横断道路観光港入口」と言っているが、一般路線バスは違うバス停名称になっている。そういうところが何か所かあって、降りたはいいが今どこにいるかがわからないというのが結構ある。そのあたりに目配りをしていただければ。リムジンバスも、リムジンバスで言っている停留所名と実際の停留所名が違うところがある。場所を入れていただいた方が外来者向きかと思う。それがあれば使い勝手はだいぶ変わる。特に転入者向けだということであるので余計に、転入者が来る時に高速バスに乗ったのはいいが、別府駅まで行ってまた戻らなければいけないという事は避けられるのではなかろうか。

(2) 東山実証運行(案)について

(事務局説明)

委員①：東山地区は限界集落に近づきつつある。今回の実証実験は交通空白地域であり、当社のバスとほとんど重複していない。したがって我々としても異議なしということで受けた内容である。バス路線が走っていないところに別府市としてジャンボタクシーで実証実験を行うということ認識していただきたい。

委員③：タクシー協会各社の現場担当者が集まって準備しているように聞いているが、時期が12～3月までであるので、雪や凍結の時に装備をどうするかということ、場合によっては運行自体が難しいということが起こるかもしれないという意見が出ているように聞いている。実証実験の主体は別府市であって、私どもは請け負う立場であるのでしっかりやらせていただくが、他の地域の事例や、いちばん大事なのは費用対効果であるので、住民にどれだけオプションを提示したなかで検討されたのかは知る由もないが、例えばデマンド形式など、私も把握しきれないくらいに形態も多いので、住民のためにも財政にも影響の少ない形で、実証実験は期限が切れているのでよいのだが、政策として実現するということを考えれば、もっと柔軟に考えていった方がよいのではないか。これはタクシー会社としてというよりも、市民としてそのように思う。

会長：これは現地を踏査して各地域の意見を聞きながら準備してきたということでよいか。

委員⑨：委員より指摘があった雪や凍結の問題については、現在タクシー協会と調整をしている。あくまでも別府市が委託主ということで、受託してもらったのがタクシー協会である。も

うひとつは、私どもが山の口や枝郷の自治会を何回か回っており、今後自治会長や住民の意見を承ってより適切な交通空白地域の救済を何とかできないかと考えていきたい。一方で来年度予算編成の時期に今なっており、別府市の限られた財政の中で可能な限り住民サービスを行えるようにいろいろな角度から検討しているので、何らかの形で報告したい。

委員③：高齢者の運転の問題で、来年3月に高齢者講習の法制度が変わる。現実的には9月中旬以降。いま3時間の高齢者講習が2時間になるかわりに、認知試験等で運転に難があるのではないかと判定された人は、後日自動車学校で4時間講習を受けることになる。警察庁が去年のデータで試算したところ、受講者の2割が引かかる。別府の自動車学校の受講者が去年3,000人、今年はおそらく3,500人くらいになるだろうが、その2割の700人が再受講となる。更新をやめようという人は確実に増える。もう1点、高齢者が運転をしていて、一時不停止などの軽い減点で捕まった場合、加齢による違反の可能性のあるものがピックアップされていて、これらは点数があっても自動車学校で4時間講習を受けることになる。この点も警察庁が試算をしていて、全国で約18万人、大分県はおよそ1,800～2,000人になる。そのうちの一定割合は別府市の高齢者である。この人たちも返納しようかとなるであろう。来年の後半からは確実に今まで以上に返納者が増えるであろうと予測している。長い目で見た検討が必要である。

会長：しっかり対策を取らないといけない。他にないか。

委員②：1点だけ検討いただきたい。昨今交通会議で何度も顔を合わせていると感じている。今回東山線について議論をした。以前は関の江団地線であった。実際真の利用者がどのように思っているのか、この場で一度も聞いたことがない。先ほど委員から指摘があったように、どの程度その路線について行政が話をしたというのがわからない。地域住民をいかに巻き込むかというのが重要であると考えている。私個人としては、住民代表と例えば関の江団地線について一度も連絡を取ったことがない。については、次回路線の協議をする時にその路線の利用者を呼んでいただきたい。可能な限り行政に橋渡しを願いたい。

委員⑨：そういう場をつくるべく、可能な限り努力したい。今回は東山線であるが、たびたび地域に入っており、現場の自治会等に行っている。今後報告を行いたい。

会長：東山線については、このような形で進めてよいか。

各委員：異議なし。

3 その他

会長：全体を通して何か意見はないか。

ワグナー：この会議の中でいろいろと意見が出ているなかで、高齢者の運転問題、子育て世代、子供

の交通への参画は非常に重要である。このような場で議論するのは有意義である。他自治体の協議会の場ではあまりそういった議論が出ない。今後も積極的に各委員より意見をいただきたい。住民の参画については我々も意識を大きく置いており、全国でバスやタクシーの乗り手が減っているという問題はある。うまくいったところは、住民、事業者、行政の距離感が非常に良い。福岡市に柏原3丁目というところがあるが、ここには高台に高齢化が進んでいる団地がありそこにバス路線を通した。地域住民が要望するだけではなく、事業者が何人乗らないとなくなるという基準を示した。住民が今バスの置かれている状況をよくわかっていない状況があったので、努力目標ができたことによって住民も努力しやすくなった。住民と事業者の歩み寄りによって、現在いちばん難しい定時定路線のバスを動かしている。費用対効果の部分もあるが、大分の富士見が丘団地の事例に関して言えば、高台に戸建ての住宅が立ち並んでいるが、住民が有価物回収（古紙・空き缶など）を行うことによって赤字を埋めていくことをしている。有価物を集めて売ることによって財源を稼いで、自分たちに必要な公共交通に充てている。そういった形で、やりようによっては公共交通をしっかりと地域の資源にしていくことにつながっていく。ぜひともそれぞれの地域においてどういった取り組みができるかを積極的に議論していただきたい。

委員⑧：先ほど指摘があったように、交通会議の場が難しく専門的な議論になってしまっている。前回も話をしたが、そういう場になってはいけないと思っている。今日出たような話がもっと出てくるべきであろうし、「地域住民を呼んではいかがか」という話が出たが、他の市ではすでに行われている。その議論をする回には、オブザーバーとして自治会長を呼んで一緒に声を聞く。当初の話では分科会を行って地域に入っていく構想があった。それをフィードバックするとともに、逆に我々がその場に参画していてもよい。双方向で議論したい。運転士の声も多く聞きたい。

事務局：次回の協議会は年明け1月中旬頃を目途に開催したい。

(11:30 終了)